

課題名	14 地域水田農業技術確立試験	分類	①
	水稻品種「ユメヒカリ」の安定栽培法		
試験研究年次	63～2年(完了)		
<p>I 目的</p> <p>筑後平坦地における晩生水稲の食味向上を図るため、新しく準奨励品種に採用された「ユメヒカリ」について、安定生産のための栽培技術を確認する。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 試験実施場所 福岡県農業総合試験場 筑後分場圃場 A-3、6、C-3、4号圃</p> <p>2 供試品種 ユメヒカリ、比較品種：ツクシホマレ、チクゴニシキ…標準栽培</p> <p>3 試験区の構成</p> <p>(1)移植時期 標準植(6月20日)、5日早植(6月15日)</p> <p>(2)苗の種類 稚苗(20日苗、140g播)、成苗(35日苗、40g播)</p> <p>(3)栽植密度 標準(株間15~16cm)、疎植(＃20cm)</p> <p>(4)穂肥時期 早期(出穂前23日)、標準(＃20日)、晩期(＃17日)</p> <p>4 試験の規模 1区20~35㎡、2区制</p> <p>5 栽培条件 施肥法(Nkg/10a)は7+3.5+2.5とし、その他は県栽培基準によった。</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>良食味品種「ユメヒカリ」の生育特性と安定栽培法を明らかにした。</p> <p>1 生育特性</p> <p>(1)ユメヒカリの葉色は生育期間を通じて淡く経過し、7月下旬~8月中旬のカラースケールによる群落葉色値は、年次及び圃場条件によって異なるが、ツクシホマレ・チクゴニシキより約0.2低い。</p> <p>(2)ツクシホマレに比較して、出穂期は4日、成熟期は5日遅い晩生種で粗数の多少によって成熟期が変動し、粗数が多すぎると成熟期が遅延する。</p> <p>(3)㎡当たり最適穎花数の範囲は30,000~32,000で、中・晩生の多収品種より少なく、目標収量は10a当たり580~620kgである。</p> <p>2 安定栽培法</p> <p>(1)稚苗では筑後平坦地の移植適期である6月20日頃より約5日早く移植する。また、早植するかわりに苗齢の進んだ苗を利用することも良い方法である。</p> <p>(2)株間が15~20cmの範囲では収量・品質に差が認められないので、過繁茂防止と省力化のためには株間20cm程度の疎植が適する。</p> <p>(3)ユメヒカリは葉色が淡いが、多肥条件では成熟期が遅延しやすいことや草型が悪化しやすい等の欠点を有するため、施肥量は過多にならないよう留意する必要がある。なお、つなぎ肥は施用せず、第1回目の穂肥は出穂前20日に施用し、これより早くならないようにする。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 葉色・出穂・成熟期と収量構成要素の品種間差

品種名	葉色			出穂期 月日	成熟期 月日	m <sup>2</sup> 穂数 本	m <sup>2</sup> 粒数 x100	登熟 歩合 %	千粒重 g	玄米 収量 kg/10a	検査 等級
	+35	+45	穂肥時								
ユメヒカリ	4.4	4.1	3.5	9. 8	10.24	413	299	89	22.9	601	2.3
ツクシホ	4.7	4.3	3.5	9. 4	10.19	476	327	89	23.2	668	2.8
チゴニシ	4.5	4.5	3.8	9. 9	10.28	430	311	91	23.7	632	2.5

注)①6月20日移植, 63~1年の平均値。②検査等級は1~9(1等上~3等下)で示す。

第2表 苗の種類及び栽植密度の違いと生育収量

苗の種類	栽植 密度	茎数 +35	葉色	m <sup>2</sup> 穂数 本	m <sup>2</sup> 粒数 x100	登熟 歩合 %	玄米 収量 kg/10a	検査 等級
稚苗	疎植 標準	522	3.7	369	316	88	631	2.8
	標準	595	3.6	391	331	87	634	2.5
成苗	疎植 標準	451	3.5	349	337	87	622	2.8
	標準	471	3.4	345	338	87	625	2.0

注)6月15日移植, 63~1年の平均値。

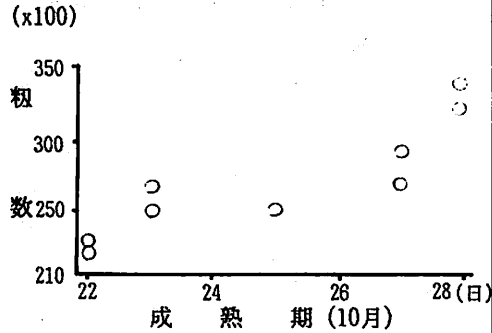
第3表 苗の種類及び移植時期の違いと生育収量

苗の種類	移植 時期	出穂 期 月日	成熟 期 月日	m <sup>2</sup> 穂数 本	m <sup>2</sup> 粒数 x100	登熟 歩合 %	玄米 収量 kg/10a	検査 等級
稚苗	早植 標準	9. 6	10.22	387	319	86	605	2.6
	標準	9. 9	10.26	387	301	85	594	2.6
成苗	早植 標準	9. 1	10.16	345	338	87	625	2.0
	標準	9. 6	10.23	367	330	87	633	2.5

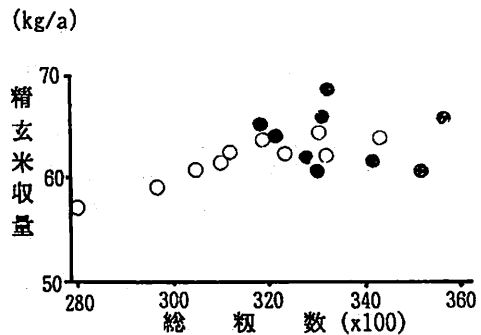
注)稚苗は63~2年、成苗は63~1年の平均値。

第4表 穂肥時期の違いと生育収量(2年)

穂肥 時期	穂肥前 の葉色	穂長 cm	穂数 /m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup> 穂数 x100	登熟 歩合 %	千粒重 g	玄米 収量 kg/10a	検査 等級
早期	3.6	81	366	307	74	23.0	465	3.0
標準	3.3	77	346	290	81	23.1	518	3.0
晚期	3.2	76	320	257	82	23.7	487	3.0



第1図 ユメヒカリの粒数と成熟期



第2図 ユメヒカリにおける粒数と収量  
注) ○:63年 ●:1年

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 福岡県「良質米生産技術指針」に記載する。
- 2 落水後圃場が過乾燥になると登熟不良となりやすいので、早期落水は避けるとともに落水後も過乾燥とならないよう水管理を行う。

VI 今後の研究上の問題点

圃場条件が異なる場合の肥培管理技術の検討。

VII 資料名

63~2年度 福岡県農業総合試験場 筑後分場 普通作物研究室  
水田作試験成績書